

越後 郡界尾根～越後駒ヶ岳

棚橋

【日時】 2008年3月20日(木)～22日(土)

【メンバー】 L棚橋、佐貫、栗原、宮内(わらじの仲間)

恐竜の背のような郡界尾根に憧れて、何年経つのだろう。「一念天に通ず」というが、これで4回目。そろそろ越後駒まで通じたいものだが。

3月20日 雨

雨の降る東京を早朝に出発し、始発の新幹線にて浦佐駅に集合する。こちらの天気も予報通りの雨模様、年末の山行が思い出される。しかし今回は回復傾向にあるので、予定通りタクシーにて入山地の荒山集落まで移動する。

除雪終了点は神社の辺りで、2年前と変わらない。それほど潜らないので壺足にて歩き出したが、やはり林道の分岐にてワカンを履き、高石沢沿いの林道を進む。出発地点からスノーシューのトレースが続いていたが、途中で無くなった。「犬の散歩ではないか」との意見も出る。ヨモギ山へは前回と同様に北西尾根より取り付くが、登り易い尾根である。ヨモギ山へは昼前に到着する。連日激務の続く佐貫の調子、そして天気共に今一つであるが、まだ幕を張るには早すぎるので先に進まざるを得ない。しかし、ここからが今日の核心であり、幕営適地は暫く得られそうもないが、頑張ってもらうしかない。

顕著になった尾根は前回に比べて雪が少なく、所々藪が出ている。その藪っぽい尾根を暫く進むと、単独行者が引き返してくる。擦れ違いざまに言葉を交わすとスノーシューの先行者だそうで、一昨年私の記録を見て来たそうである。引き返して、改めて大湯から駒ヶ岳を目指すとのこと。

少しアップダウンを繰り返すと、あの嫌らしかったボロボロの壁に近づく。下部は灌木を掴みながらフリーで登り、上部は雪のない壁となっている。前回は不安定な雪壁を騙し騙し登ったが、今回は上まで繋がるバンドルートが容易そうだ。念のためにロープを出し、栗原リードで上まで抜ける。更に上の雪壁を登り、2年前と同じ幕営適地にて本日の行動を終える。



あの壁に雪が無い

3月21日 曇り後晴れ

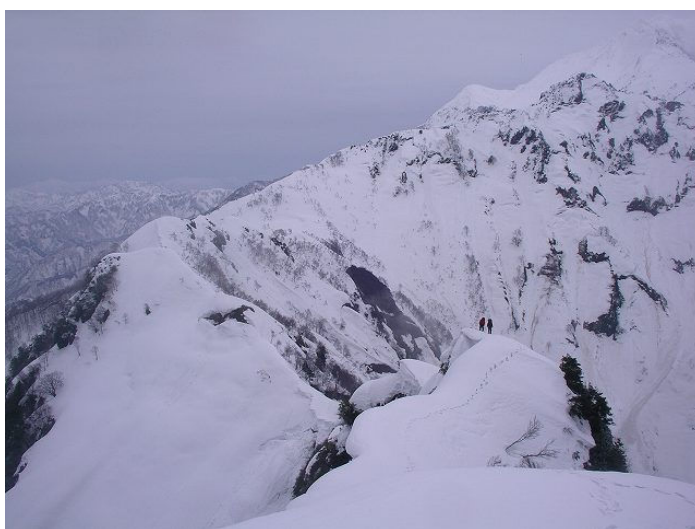
テントの外に出るとオツルミズ沢の下の滝が眺められる。なかなか良いロケーションだ。出発して30分ほど進むとカネクリ山の山頂（東峰）に着く。ここから先は細い尾根の下りとなるので、棚橋がロープを引く。その後はフリーで進み、ロープを仕舞った私が追いつくと、栗原が尾根通しではなく南側に降り、宮内さんが続いたところだった。途中でロープを出し、宮内さんが尾根に向けてトラバースする。佐貫、棚橋と続き、棚橋が釣瓶にて更にロープを延ばす。稜線に出た先が急に落ち込んでいるので雪庇を恐れ、尾根の南側をトラバースするルートを模索してみたが無理なので稜線に戻る。再度スノーバーの効きを確認してバックステップで降りると、下部の傾斜が緩んだ辺りに灌木が見えたが、そこまではロープが届きそうもない。仕方がないので下降開始地点まで登り返し、ピッチを切る。次のピッチは宮内さんに、もう1本のロープを下の灌木まで延ばして貰う。そこで続く栗原に、その手前の木で懸垂下降するように指示がでる。そこは正に、前にも懸垂下降の支点を求めた場所だ。懸垂下降すると下部は灌木帯となっておりロープを仕舞って先に進む。

灌木帯を進むと2~3m位のギャップが有り、先行者に従い灌木に掴まって降りる。最後尾の佐貫の悲鳴に振り返ると、左右別々に掴んでいた灌木が両方とも折れたとのこと。幸い安定した所への落下だったので何でもなかったが、驚いたと共に大いに反省させられた。灌木帯を抜けると、やや急な雪の斜面となっているが、雪の状態も悪くはないのでロープ無しでスタスタ進む。

暫く進むと左手が開け、平らになっている。あまりに早いと思ったが見覚えがあったので地形図で確認したところ、やはりブラック台地であった。台地の左側にも尾根状が



カネクリ山を下降中



核心部通過まであと少し

見えるが、前回と同様に右側を進む。好天の中、大汗をかきながら登ると池ノ塔だ。正面尾根を登ったことのある宮内さんによると、今日中に駒ノ小屋に着くことも可能ではないかとのこと。小屋には年末に荷揚げしたガソリンの他、ビールや副食、3月に退会した後藤さんの差し入れの品々等がデポしてあるので、天気の良いことも手伝って欲張った気持ちが湧いてくる。

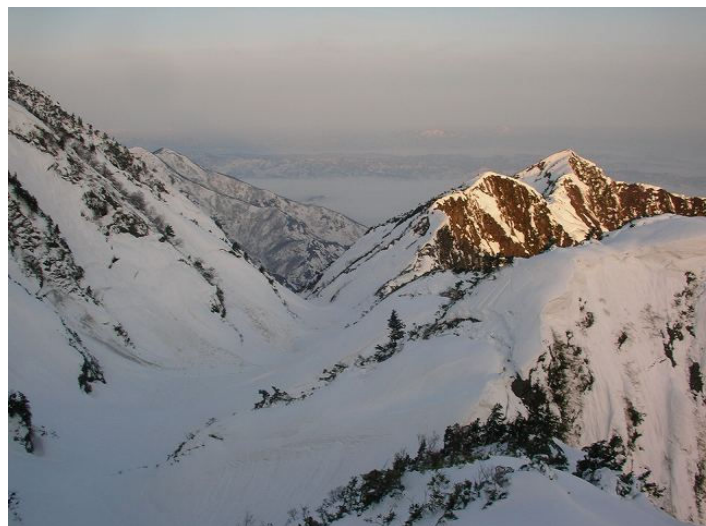
c1588の対岸付近を過ぎて少し進むと、尾根は段々藪っぽくなっていく。かなり鬱陶しくなってきたのでオツルミズ沢側に降りて、藪を回避しようという作戦が提案されたが、私は「それでは郡界尾根ではなくなってしまう」と響燈を買いながらも尾根に拘った。そのせいではない（と思う）が結局、駒ノ小屋までは届かず、c1430のコルを整地して幕営する。



郡界尾根上部は藪

3月22日 晴れ

出発し振り返ると、金山沢の奥壁が朝日に輝いている。藪を避けたり、時折腰まで雪に埋もれたりしながら進むと1時間ほどでフキギに着く。暫く休んだ後、開けてきたオツルミズ沢の源頭を進む。急登を一頑張りすると、小屋のアンテナが間近に見える。漸くここまでやって来た。小屋前にザックをデポし、大好きな駒ヶ岳の山頂に向かう。山頂では今までの苦労が報われ、360度の大展望が得られた。



金山沢奥壁が朝日に輝く

再び小屋に戻り、年末に荷揚げしたデポ品を無事回収する。荷物は少し重くなったが、気持ちは軽

やかだ。恐れ多くも宮内さんにも分担していただき、下山を開始する。雪が腐り、アイゼン団子に苦しめられながらも、百草ノ池までは我慢して進む。天気が良いすぎて暑いながらも、アイゼンを外してからはスピードアップし最後の仕事である、偵察時に付けた下山確保用の赤布を回収し、予定通り銀山平へと下山した。

2年前は、急な尾根に乗った不安定な雪や急なギャップ、雪底にロープを出し放しだった箇所も今回はそれほどの難易度は感じられなかった。単に回数を重ねただけではなく、雪が少ないために前回は不安定だった所の雪も解けて無くなっていたり、1日目はやや雨に降られたものの、その後の天候は良かった等、条件に恵まれたことに因ることが大きい。また宮内さんが加わって下さったおかげで、頼りきるようなことはしなかったものの、精神的に余裕が生まれたことは否めない。そんなこんなで予定より1日短く、山行を終えることができた。漸く長年の目標が達せられたので、次なる尾根を目指していきたい。



駒ヶ岳山頂にて

【行程】

- 3/20 荒山(8:25)～取付(9:40/50)～ヨモギ山(11:35/55)～カネクリ山西峰C1(16:10)
- 3/21 C1(6:00)～カネクリ山(6:30)～カネクリ山下降終了点(8:00)～ブラック台地(10:00)～池ノ塔尾根JP(10:25)～c1588の対岸付近(14:30)～c1430コルC2(16:10)
- 3/22 C2(5:45)～フキギ(7:00/25)～駒ノ小屋(8:15/25)～駒ヶ岳山頂(8:45/9:00)～駒の小屋(8:25/35)～道行山(11:55)～蛇子沢橋(13:30)～銀山平(14:05)

【地図】八海山、奥只見湖

